



Title	中国の中小規模歴史文化名城における歴史的環境の変容とその保存方策に関する研究
Author(s)	陰, 劫
Citation	大阪大学, 2005, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/45849">https://hdl.handle.net/11094/45849</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈/a〉</a> をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	陰 劼
博士の専攻分野の名称	博士(工学)
学位記番号	第 19552 号
学位授与年月日	平成 17 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 工学研究科環境工学専攻
学位論文名	中国の中小規模歴史文化名城における歴史的環境の変容とその保存方策に関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 鳴海 邦碩 (副査) 教授 澤木 昌典 助教授 木多 道宏

#### 論文内容の要旨

中国では、歴史文化名城保存制度が設けられてから 20 年余が経過するが、歴史的環境の保存についての社会的要求はますます高まりつつある。このような中で、本研究は、中小規模の歴史文化名城および伝統的な方形城郭都市の形態が存続している大理古城を研究の対象とし、中小規模歴史文化名城における歴史的環境の変容過程、保存の状態、保存計画の評価、住民の保存意向などを明らかにし、今後の中国の歴史的環境の保存のあり方の再検討に資する知見を得ることを目的とした。本論文は、本編 5 章および序章と終章からなる。

序章では、本研究の背景と目的、研究の構成などについて記述した。

第 1 章では、都市面積および人口規模の変化特徴に基づいて、中小規模の歴史文化名城を類型化するとともに、各市政府の都市管理部門に対して名城保存の現状と方針などに関するアンケート調査を行い、名城保存の実態および政策に対する評価について分析した。その結果から、中小規模歴史文化名城の保存政策上の課題について考察した。

第 2 章では、中小城郭歴史文化名城の築城史の特徴と変容過程を明らかにした。その上で国による歴史文化名城保存制度と地方政府による保存計画の内容の違い点を分析し、今後の名城の主要な保存対象とその保存課題・方向性について考察した。

第 3 章では、大理古城を事例に、まず、古城の歴史的市街地の変容実態および保存計画が開始された時期の古城における市街地の実態を把握し、次に古城の保存計画の内容を分析するとともに、古城の歴史的空間整備の経緯と実施された事業の実態を把握し、これらの考察を通じて、大理古城における 20 年余経過した歴史文化名城保存計画制度の効果について評価した。

第 4 章では、大理古城における存続している伝統的民居を事例に、伝統的民居の敷地の変容過程と民居の所有権の変容過程を明らかにし、民居の住まい方の実態と利用の実態を把握し、民居の増改築の実態と特徴について考察した。

第 5 章では、大理古城の伝統的民居の居住者に対する意識調査の結果から、伝統的な民居の居住者の住まい方実態、民居や歴史的環境の保存に対する意識などの分析を通じて、民居について将来の利用意向、居住者の保存意向を明らかにし、今後の大理古城における歴史的環境の保存の方向性について考察した。

終章では、以上を総括するとともに、中国の中小規模歴史文化名城において歴史的環境を保存する課題について考察し、今後の住民参加の保存方策のあり方について提言した。

## 論文審査の結果の要旨

中国では、歴史文化名城保存制度の設立から 20 年余が経過するが、歴史的環境の保存についての社会的要求はますます高まりつつある。本論文は、このような状況下において、中小規模の歴史文化名城および伝統的方形城郭都市の形態が存続している大理古城を対象とし、中小規模歴史文化名城における歴史的環境の変容過程、保存実態、保存計画の評価、および住民の保存意向などを明らかにし、今後の中国における歴史的環境の保存手法の再検討に資する知見をまとめたものである。得られた結果を要約すると以下の通りである。

- (1) 79 の中小規模の歴史文化名城について、都市面積・人口増加の特性に基づいて分類した 3 つの類型を勘案し、回答のあった 49 の市政府都市管理部門からの意見聴取結果を用いて、名城保存の実態および保存政策に対する自己評価について分析し、中小規模歴史文化名城の保存政策上の課題を明らかにしている。
- (2) 67 の城郭型の中小規模歴史文化名城について、築城史の特徴と変容過程を明らかにした上で、国政府による歴史文化名城の保存方針と地方政府による保存計画の相違点を分析し、今後の名城の主要な保存対象とその保存の方向性および課題を明らかにしている。
- (3) 代表的な城郭型の中小規模歴史文化名城である大理古城を対象に、歴史的市街地の変容実態を把握した上で、2 期に分かれる歴史的空間整備の結果を分析し、大理古城における 20 年余経過した名城保存計画制度の効果を評価している。
- (4) 大理古城において存続している伝統的民家を事例に、その敷地の変容過程および所有権の変容過程を明らかにするとともに、民家の住まい方と利用実態の分析を通じて、民家の増改築の特徴を明らかにしている。
- (5) 大理古城の伝統的民家の居住者に対する意識調査結果の分析を通じて、民家の将来の利用意向、保存意向を明らかにし、その考察を踏まえて、民家の居住者を核とした住民参加の保存体制をつくり上げることの可能性を示唆している。

以上のように、本論文は、中国における歴史文化名城の保存施策の現状と問題点を検討した上で、詳細な実態調査および住民意向調査を踏まえて、歴史的環境保存施策を展開していくための住民参加方策のあり方について提言を行っており、環境工学の発展に寄与するところ大である。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。